

助産婦雑誌 第52巻 総目次

1998年1 - 12月

(表題は、題名：筆者名、号数、開始ページ数)

特集

[1月号]助産婦のキャリア開発

[対談]キャリア開発計画の考え方—個人と組織のマッチングのために：北尾誠英・福井トシ子，1，9.

助産婦のローテーションをいかに考えるか：村上睦子，1，16.

「プライマリナースの発達モデル」による助産婦のキャリア成長の支援—慶應義塾大学病院看護部のキャリア開発教育プログラム：菊地敦子，1，22.

キャリア開発：組織と個々の助産婦のコミュニケーション：福田紀子，1，29.

アメリカで看護学博士号を取得—7年間の留学経験で得たもの：町浦美智子，1，34.

キャリア開発。私たちと私の挑戦：上澤悦子，1，40.

国際保健の担い手の一員として：大森絹子，1，44.

アメリカのナースミッドワيفのキャリア開発：Catherine Carr，1，48.

日本助産婦会の教育プログラム：岡本喜代子，1，54.

日本看護協会における「周産期看護」研修プログラム：工藤郁子，1，56.

木村看護教育振興財団の研修体験—ボストン・ベスイスラエル病院/メイヨーメディカルセンター/アルタ

ペイツヘリック病院：鳥越郁代・千葉陽子・長谷川ともみ・板橋知子，1，60.

[2月号]双子のお母さん

双子の母親になるということ：久保田奈々子，2，9.

3年めを迎えた双子の親の会「ツインスターズ」のサポート：服部律子，2，17.

自助グループサポート実習と教育上の位置づけ：佐山光子・湊孝子・佐藤悦，2，22.

[座談会]専門家の皆さん，もっと理解を一わたしたちの妊娠・育児体験：山崎友恵・上野明美・柄島隆子・石丸広子，2，28.

保健婦として「育児教室」にかかわって10年：大岸弘子，2，34.

お父さんに逃げ道はない—双子育児のミステリーゾーンから：墨威宏，2，39.

双胎妊婦の妊娠中の異常と保健指導の実態—「ツイン

スターズ」会員の調査から：服部律子・前原恵子，2，45.

お母さんに知っていてほしい情報：山中典夫，2，50.

[3月号]CTGに強くなる

CTGに強くなろう：井上裕美，3，9.

CTGを用いた胎児心拍モニタリングとそのメカニズム：橋本一昌・神崎徹・村田雄二，3，14.

CTGの判読法：CTGによる胎児心拍モニタリングとその実際：福家信二・神崎徹・光田信明・村田雄二，3，20.

FHRモニタリング：フィータル・ディストレスをどこまで診断できるか？：武久徹，3，26.

異常CTGの注意：丸山有子，3，31.

フリースタイル分娩における胎児のモニタリング：井本園江・星野妙子，3，37.

開業助産婦が安全なお産を行なうためのCTGの診断：小西博子・石塚和子，3，41.

CTG症例検討会—CTGの正しい読み方を身につけよう：山本勉・広瀬尚美・武久徹・嘉本和恵・井上裕美・井本園江・福井トシ子，3，44.

[4月号]証拠にもとづく助産ケア

証拠に基づく医療ケア：福井次矢，4，9.

[座談会]産科臨床のグローバルスタンダード，日本にも登場—『妊娠・出産ケアガイド』を翻訳して：北井啓勝・古谷健一・渡部尚子，4，14.

助産婦として『妊娠・出産ケアガイド』の執筆に携わって—A Guide to Effective Care in Pregnancy & Childbirth：メアリ・J・レンフルー，4，20.

臨床に生かせる良質な研究をしよう：堀内成子，4，23.

無作為対照試験—Randomised Controlled Trials: RCT：ジュニファー・スリープ，(訳)戸田律子，4，29.

お産を変える—第24回ICMオスロ大会基調講演から：ケイト・ジャクソン，(訳)戸田律子，4，34.

ナースミッドワيفによる支持的ケアと帝王切開分娩の発生率減少との関連—Supportive nurse-midwife care is associated with a reduced incidence

of cesarean section: ジェーン・パトラー, パーバ
ラ・エイブラムズ, ジェニファー・パーカー, ジェ
ームズ・M・ロバーツ, ラッセル・K・ラロス,
Jr., 4, 40.

西バークシャーにおける会陰切開に関する検討—3年
後の追跡調査—West Berkshire perineal manage-
ment trial: three year follow up: ジェニファー・
スリープ, アドリアン・グラント, 4, 49.

[座談会]『WHOの59カ条 お産のケア実践ガイド』を
どう読むか: 戸田律子・久靖男・早乙女智子・浅野
みゆき, 4, 54.

[5月号]周産期ケアの地域システム化

産科はすべて救急である: 長屋憲, 5, 9.

東京都における周産期医療システムの構築: 三上晃,
5, 16.

周産期医療情報センターの役割—東京都母子保健サ
ービスセンターの場合: 安藤一人・日暮眞, 5, 20.

開業助産婦にとっての福音—東京都周産期医療対策事
業のシステム化: 広瀬綾子, 5, 26.

周産期医療システム事業. 4県でスタート

① 埼玉県における周産期医療のシステム化: 小川雄
之亮, 5, 30.

② 栃木県における周産期医療のシステム化: 高松征
雄, 5, 35.

③ 富山県における周産期医療のシステム化: 館野政
也・中野隆・大口昭英, 5, 41.

[座談会]神奈川県産科婦人科医会の周産期救急対策シ
ステム—開業助産院からの救急の受け入れについ
て: 浜田宏・西島正博・佐藤啓治・山本詩子・宮下
美代子・豊倉節子, 5, 46.

大阪における周産期医療の地域化10年の歴史と今後
の課題: 末原則幸, 5, 54.

[6月号]基本・周産期の薬剤

周産期薬を使うということ—薬物療法の大切さと怖さ
と: 井上裕美, 6, 9.

証拠に基づく薬物治療と処方の見直し: 浜六郎, 6,
14.

マイナートラブルの解決—薬剤を使わない対処法: 鮫
島浩二, 6, 19.

妊婦の薬: 土屋清志・増田幸子, 6, 29.

産婦の薬: 高木耕一郎・馬木小夜子, 6, 36.

褥婦の薬: 青野敏博・橋本公子, 6, 42.

母乳と薬剤: 石井真美, 6, 46.

母体への薬剤投与による治療が新生児に及ぼす影響:
永渕成夫, 6, 51.

NICUでの薬の使用: 堀内勤, 6, 55.

精神疾患のある周産期の患者と薬: 富山三雄, 6, 60.

薬と妊産婦のこころ: 戸田律子, 6, 64.

[7月号]切迫早産—最近の治療とケア

切迫早産—最新のとらえ方: 北井啓勝, 7, 9.

切迫早産の治療とEvidence-Based Medicine: 古谷
健一・徳岡晋・村山敬彦・水本賀文・永田一郎・山
岸幸子, 7, 17.

おなかが張るのは即切迫早産ではない: 竹内正人・進
純郎, 7, 22.

切迫早産治療の問題点—主に診断基準と子宮収縮抑制
剤をめぐる: 武久徹, 7, 28.

切迫早産妊婦の看護の実際: 谷脇文子・高嶋文子, 7,
34.

切迫早産妊婦と安静: 土屋清志, 7, 40.

切迫早産妊婦の早産指数と妊娠延長数および安静度
に関する検討: 河見眞美, 7, 45.

PROMの新しい予防法—助産婦による腔内消毒: 五
十嵐正雄, 7, 50.

切迫早産臥床妊婦に対する理学療法: 椎野泰明・白浜
正人・大宇根浩一・大田近雄, 7, 55.

[8月号]こどもの虐待を防ごう

わが国における子どもの虐待: 鈴木敦子, 8, 9.

虐待する親へのケア—ペアレンティングを高める: 郭
麗月, 8, 15.

地域の中で開業助産婦ができること: 長谷川喜久美,
8, 20.

周産期からみた虐待発生予防: 稲佐郁恵, 8, 25.

[座談会]わが子への虐待—その痛みに向き合う母親た
ち: 広岡智子・他, 8, 31.

虐待の世代間伝達を断ち切る: 渡辺久子, 8, 38.

[インタビュー]現代の母性社会心理—大日向雅美先生
に聞く: 大日向雅美・〔聞き手〕新野由子, 8, 45.
利用できる社会資源: 津崎哲郎, 8, 51.

[9月号]母乳育児成功のコンセプト(上)

[対談]なぜ母乳育児がいいのか, どうしたら母乳育児
ができるのか: 橋本武夫・飯田ゆみ子, 9, 9.

みんな母乳育児を望むのに30%しかできないのはな
ぜか—医療者の常識を疑うことから始めなければ:
永山美千子, 9, 15.

母子同室での頻回授乳がポイント—母と子は離れては
ならない: 吉永宗義, 9, 20.

ユニセフとWHOの共同の「10カ条勧告」を読み解
く: 堺武男, 9, 26.

日赤医療センターにおける母乳育児支援の取り組み:
貴家江・北山裕子, 9, 32.

母乳・家族・地域—現代の母親が生きる環境: 南部春
生, 9, 38.

子どもの数が増えるほど, 育児が楽になってきた: 志
村季世恵, 9, 44.

小児科医がラクテーションコンサルタントの資格を得
て: 瀬川雅史, 9, 49.

[10月号]母乳育児成功のコンセプト(下)

<母乳をめぐる問題解決>

- 生理的体重減少：山内芳忠，10，9。
新生児黄疸：船戸正久・高野亨子，10，14。
卒乳の考え方ー離乳・卒乳の相談と実践：南部春生，10，20。
母乳と虫歯，咀嚼機能の発達との関係：田村康夫・山田賢，10，26。
アトピー性皮膚炎：川辺志津子・根岸和子，10，32。

草加市立病院の母乳育児ケア：武井恒代，10，38。

稲田登戸病院母乳外来のケア：中本加寿代，10，44。

<母子同室を実践する>

- 鹿児島大学病院周産母子センター。赤ちゃんに最善のスタートを：大迫圭子・先崎圭子，10，49。
加古川市民病院。スタッフとお母さんの意識も高まって：末重加代子・中尾温美・伊東良子，10，55。
北見赤十字病院。ミルクを廃止して5年：八矢幸美，10，59。
国立津病院。手さぐりで母親を受けとめつつ：佐々木みゆき・多喜紀雄，10，64。
高田医院。きめ細かなサポートと訪室：高田恭宏，10，68。
聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院の「母乳育児を成功させるための10カ条」の実践：芳賀真粧美・相馬由美・飯田ゆみ子，10，72。
「母乳とダイオキシン」緊急アピール：日本母乳の会，10，78。

[11月号]フィットネス出産準備教育

- フィットネスな心身になるために：林鶴子，11，9。
昔と今，女性のからだは変化したか：鈴木泰子，11，15。

<フィットネス出産へのアプローチ>

- マタニティウォーキング：東野利夫，11，20。
マタニティエアロビックスダンス：越野立夫・中井章人，11，24。
マタニティスイミング：鈴木泰子，11，28。
マタニティ・ヨガ：森田俊一，11，32。
ストレッチ，筋力トレーニング：小田切房子，11，36。
[対談]自律訓練法によるリラクセーション：佐々木雄二・九島璋二，11，41。
産後のシェイプアップーエクササイズのはじめは早いほど効果的：湯澤きよみ，11，47。
妊産婦体操の歴史ー35年の歩み：松本清一，11，52。

[12月号]必修。周産期の心のケア

- [周産期心理士座談会]お母さんたちに寄り添う者として：橋本洋子・永田雅子・宇野知子・香田絵美子・内堀桂子・玉井真理子，12，9。

- お母さんがしっかりとサポートされているということ：橋本洋子，12，16。
心のケアができるために自分自身を知る：木村とも子，12，21。
妊婦の不安のケア：高室典子，12，26。
子どもの死を体験する母親をケアする：成田伸・横尾京子，12，31。
子育て不安の母親を支援するー助産婦に必要な視点とは：松原まなみ，12，36。
障害をもつ子の親からのメッセージ：野辺明子，12，42。
人工妊娠中絶をした女性をケアする：赤松彰子，12，48。

特別記事

- 未来のためにお産を大切にしたいー「いいお産の日in'97」参加記：土屋麻由美，2，55。
第4回いいお産の日in'97 グラフティーところとからだをはぐくむ：宮崎雅子，2，60。
[インタビュー]ピルをとおしてリプロダクティブ・ヘルス/ライツを考えるーキャロライン・L・ウエストホッフ博士に聞く：(聞き手)高村寿子・早乙女智子，5，63。
[座談会]開業診療所でのオープンシステム，その順調なスタートー大社由美さんの出産をそれぞれの立場でサポート：浦野晴美・堀江由紀子・三宅はつえ・大社由美，6，69。
[対談]助産婦の将来にむけてーまずは日本助産婦会と日本看護協会の交流から：石塚和子・渡部尚子・(司会)中根直子，8，70。
[座談会]現代ママ事情：三好菜穂子・村田弥生・小林雅子・杉山千佳，9，69。
[インタビュー]熟年トリオならではのコスモス女性クリニック。オープンして1年：野末悦子院長に聞く，10，81。
[対談]キャロラインさんの日本訪問記：キャロライン・パディリー，ターナー節子，12，66。

特別寄稿

- アイナ・メイ・ギヤスキンの「The Farm」訪問記：菅田倫子，1，68。
米国の産科医療と助産婦活動：島田三恵子，2，65。
祖国を遠く離れてー東京にサポートシステム誕生ーTokyo Childbirth Education Associationの活動：エレナ・ド・カープラス，3，69。
米国でみた助産ケアの工夫：島田三恵子，3，75。
周産期におけるメディカル・アロマセラピー(前)：東野利夫，4，62。
トリプルマーカー検査の実際と問題点：森宏之，5，69。

内容充実。ロンドン・アクティブパースセンター研修
体験記：宮本雅子，5，75。

周産期におけるメディカルアロマセラピー(後)：東野
利夫，6，76。

Bears 大分。はじまりの日：甲斐和代・福嶋由美・利
光英子，6，83。

長期研修後，開業助産婦1年のプロセス：青柳裕子，
7，62。

ホリスティック出産準備教育：九島璋二，7，70。

セックスレスはなぜ問題なのか一性行為は許しであ
る：奈良林祥，8，56。

地域母子保健を担っていくために助産婦(開業・市町
村・病院)はもっと連携しよう：加藤尚美，8，62。

解説。最近の母子保健関連法令・通知の改正：岩澤和
子，9，55。

ドメスティック・バイオレンスと女性の人権：原田恵
理子，9，62。

笑顔の温かいアフリカの子どもと出会う：福田雅
文，10，87。

オランダ人助産学生の日本研修滞在記：パート・グラ
ーフ，マイケ・ロイリンク，11，71。

インポテンス外来から見える男の性：高坂哲，11，
78。

手稲溪仁会病院助産婦の利尻島での活動：錦木啓子・
中村瑞恵，12，54。

子どもの事故と救急蘇生：田中裕之，12，60。

特別企画

母乳とダイオキシン問題―「母乳フォーラム in みや
ぎ」より：堺武男・長山淳哉・高橋伸行・有路公
子・横林一彦・千田道代・相沢初江，11，59。

阪大病院誌上カンファレンス・ 合併症妊産婦の治療とケア

急性肺炎・肺炎・麻痺性イレウス・心外膜炎産婦の治
療とケア：里村節子・下屋浩一郎・田中敏子・徳川
吉弘・中辻友希・三宅侃・村田雄二，4，68。

再生不良性貧血合併妊婦の治療とケア：尾崎圭一郎・
里村節子・下屋浩一郎・徳川吉弘・長岡淳子・村田
雄二，5，82。

非定形精神病を合併した双胎妊婦のケア：児嶋真弓・
里村節子・田原正浩・徳川吉弘・中村益久・村田雄
二，7，77。

研究・調査・報告

産後うつ病の早期発見にマタニティ・ブルーズアンケ
ートを取り入れて―アンケート結果から看護師が取
り組んだ改善点：佐藤邦子・伊藤厚子・高橋美智・
田鎖とく子・村田圭子・小瀬川久恵・佐々木はつ

子・木村陽子・大沢扶佐子・長井キミ，1，73。

「助産婦の専門性と役割」についての意識調査：久保田
君枝・山川月子・望月聖子・河島良子・秋山賀子・
北島和子・杉山登志子・古谷和子，2，74。

出産後の母親の感情と夫婦関係―1歳児をもつ夫婦の
調査：今村栄子，3，81。

社会病理現象としての児童虐待問題へのアプローチ：
平田伸子，4，75。

欧米人夫妻のバースプラン実践をとおして主体的な出
産について考える：安達久美子，6，88。

働きながら2人以上の子どもを育てている女性と家族
の大変さの実態，および子育て支援策の検討：山本
あい子・中込さと子・小林康江・篠崎和子・柳吉桂
子，7，84。

分娩室における産婦の緊張緩和をどう行なっているか
―500床以上の病院での実態調査から：村山陵子・
渡邊典子・村山ヒサエ，8，80。

育児を支援する保健指導―ある産科診療所での試み：
蔵本美代子，9，77。

乳房の硬さに関する定量的解析―乳房硬度計の試作：
武井とし子・湯本敦子・楊箸隆哉・藤原孝之・松本
あつ子，12，72。

ケースレポート

夫との性的関係に失調を来した外来妊婦の援助：佐藤
珠美・竹ノ上ケイ子，11，83。

トピックス

産科臨床のグローバルスタンダード『妊娠・出産ケア
ガイド』翻訳出版される，2，80。

「助産士」導入をめぐる最近の動き，3，88。

シンポジウム「助産婦さんへのメッセージケアを受
ける側から助産婦さんへ」を開催しました：熊手麻
紀子・阿部真理子，9，74。

ICM大会，半年後に迫る！―第25回ICM(国際助産
婦連盟)マニラ大会：12，71。

私の分娩体験記

「あなたもハッピー，わたしもハッピー」―オーストラ
リア・パースセンターでの出産記：西村文子，8，
76。

クローズ・アップ

「アメリカの研修で大きな収穫を得ました」：鳥越郁代
さん・千葉陽子さん・長谷川ともみさん・板橋知子
さん，1，1。

双子の親の会「ツインスターズ」をサポートする：服部
律子さん・前原恵子さん，2，1。

外国人カップルのために「東京出産教育協会(TCEA)」を主催する：エレナ・ド・カーブラスさん，3，1。
「A Guide to Effective Care in Pregnancy & Child-birth」の改訂に携わった英国の助産婦：メアリ・レンフルーさん，4，1。
病院からロンドン・アクティブパースセンターの研修に派遣された：宮本雅子さん，5，1。
オープンシステムで出産をサポートしました：育良クリニックのスタッフと出張助産婦の三宅さん，6，1。
開業して1年たちました。日本助産婦会「長期研修課程」1期生の青柳裕子さん，7，1。
助産婦界のニューリーダー誕生—日本看護協会新職能理事渡部尚子氏，日本助産婦会新会長石塚和子氏，8，1。
日本で2人め，国際認定ラクテーションコンサルタントの資格を得た小児科医師の瀬川雅史氏，9，1。
思う存分女性のために働きたい。コスモス女性クリニックの野末悦子院長，10，1。
研修のため来日したオランダの助産学生：マイケ・ロイリンクさん，バート・グラーフさん，11，1。
1年3か月，病院から派遣されて利尻島の周産期ケアに活躍：中村瑞恵さん，12，1。

ハローベビー：谷岡正之

キリン／がんばったね！，1，4。
フラミンゴ／羽の中は温かいよ，2，4。
コアラ／離乳食はママのウンチ，3，4。
トラ／優しさの中にも厳しさが，4，4。
キンシコウ／子育てには心の栄養も，5，4。
シマウマ／美しい幻想的なお産，6，4。
カバ／偉大な母親「茶目子」さん，7，4。
ベニガオザル／美しい白髪のベビー，8，4。
ヒクイドリ／育児はパパの仕事，9，4。
キノワグマ／クマの育児は飲まず食わず，10，4。
カンガルー／みなし児を育てたカンガルーの母親，11，4。
レッサーパンダ／わたし，かわいいでしょう？，12，4。

とらうべ

現代の「幸福」の行くえ：葛生良一，1，5。
医療も情報開示時代へ：浜六郎，2，5。
「助産婦」をつくりたい：三砂ちづる，3，5。
私を創造する：佐藤俊一，4，5。
わからないこと：佐藤愛子，5，5。
私が笑えばあなたが笑う：昇幹夫，6，5。
どっちもいのち：小笠原望，7，5。
看護職の「専門職化」追求に思う：鶴沢由美子，8，5。
人権の世界の輪：大谷藤郎，9，5。

英国の助産婦と日本の助産婦，なにが違う：住田亮子，10，5。
たとえ親の顔を知らなくとも—ルーマニアでエイズと闘う子供たち：浅井淳子，11，5。
海外発信からみた日本の科学論文：宮崎継夫，12，5。

今月のニュース診断：斎藤有紀子

女性を支える「科学」情報—出産のケア，ピルの知識，1，6。
DNA 親子鑑定と家族，2，6。
「クローン人間」議論に欠けていること—産むのは誰か，生まれてくるのは誰か，3，6。
助産士議論の行方，4，6。
輸血拒否—生命の存否に関わる自己決定，5，6。
医師の自律と責任—日本医師会生命倫理懇談会報告書から，6，6。
性暴力を許さぬ社会に—被害者を支えるさまざまな動向：藤原美幸，7，6。
非配偶者間体外受精—問われる実施基準の作りかた，8，6。
評価が未確立な技術の臨床応用—母体血清マーカーテストの議論から，9，6。
着床前診断の対象疾患—安易な拡大は誰のためにもならない，10，6。
インフォームド・コンセントの課題—ネガティブな情報をどう共有するか，11，6。
母乳・ダイオキシン・SIDS—妊産婦の不安にいかに関わり添うか，12，6。

読者談話室

金魚のお産：山内葉月，1，78。
分娩時の眠気。私の場合：菱田香，1，79。

BOOK

仕事—発見シリーズ「助産婦」，2，59。
日本助産婦史研究，4，48。
「イブの出産，アダムの誕生」，7，49。
「自然出産の智慧」，7，61。

MY BOOK

大切にしたい女性たちの出産史—『出産革命のヒロインたち—アメリカのお産が変わったとき』を訳して：河合蘭，9，84。

りれー随筆

マタニティライフ超体験記：椎葉美香，1，80。
あるがままに生きよう：奥善美，2，82。

10年目の転機：福島桂子，3，90。
 心機一転の春：田中智子，4，82。
 震災から3年：額田春美，5，90。
 学生の卒業に思うこと：大西祐紀子，6，94。
 助産婦の「顔」が見えない：寺田恭子，7，90。
 学生の「産み出す力」を引き出したい：佐藤美春，8，86。
 ランナー：山松桂子，9，86。
 団塊の世代の一人のつぶやき：林静子，10，92。
 学生の気持ちと教師の思い：青木美奈，11，90。
 「今まで」そして「これから」：高井雅美，12，78。

Medical Scope：島田信宏

分娩時臍帯動脈血ガス分析の時間的影響は？，1，83。

帝王切開の社会的適応，2，85。
 妊婦の乳癌，3，93。
 胎便吸引症候群の発生時期，4，85。
 妊娠性高血圧の硬膜外麻酔による治療，5，93。
 妊娠中の血糖値検査，6，97。
 妊娠後半期の血液濃縮，7，93。
 妊娠後半期の血液検査データの読み方に注意しよう，8，91。
 産科周産期医療と血栓症，9，91。
 原因不明とされていた早期新生児の発疹症，10，95。
 脳室周囲白質軟化症の発生に関する新しい研究成果，11，93。
 慢性腎不全女性の妊娠・分娩（1）：島田信宏，12，81。

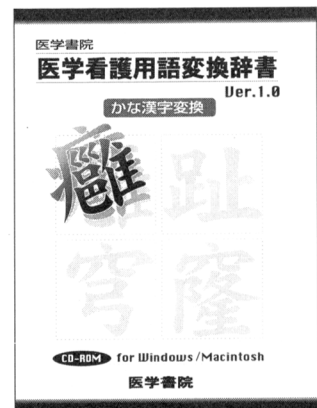
●医学看護専門用語70,000語以上収録 専門用語を一発変換！

医学書院 医学看護用語変換辞書 Ver.1.0

新刊

ユーザーが使用しているパソコンの日本語入力システムに本辞書を追加登録することにより、難解な医学看護用語が的確にすばやく変換できるようになる。収録語数は7万語以上であり、最長16文字の入力文字をかな漢字変換可能。対応日本語入力システムはMS-IMEをはじめ、ATOK、ことえりなど。

●CD-ROM for Windows/Macintosh 1998
 定価（本体7,800円＋税）¥400 [ISBN4-260-19766-5]



医学書院

〒113-8719 東京都文京区本郷5-24-3（販売部）TEL 03-3817-5657 FAX 03-3815-7804
 E-mail issd@ba2.so-net.or.jp / http://www.igaku-shoin.co.jp / 振替 00170-9-96693